11 月の農作業管理

指導販売課

柑橘

秋肥の施用がまだの方は早めの施用をしましょう

１．腐敗防止剤の散布（収穫前必ず散布）

出荷先での腐敗果の発生は価格低下の引き金になります。
腐敗防止剤の散布は必ず行って下さい。

時期	品種	薬剤名	対象病害
11 月中旬	普通温州 高糖系	ベフトップジンフロアブル １,５００倍	青かび病、緑かび病、軸腐病、黒腐病、こうじかび病、炭疽病
12 月上旬	宮内伊予柑	ベフトップジンフロアブル １,５００倍 マデックＥＷ　２,０００倍	青かび病、緑かび病、軸腐病、黒腐病、こうじかび病、炭疽病 へた落ち防止
	その他中晩柑	ベフトップジンフロアブル １,５００倍	青かび病、緑かび病、軸腐病、黒腐病、こうじかび病、炭疽病

●ミカンハダニの発生に十分注意をしましょう。
発生した場合（応急防除）　スターマイトフロアブル　３，０００倍又は
カネマイトフロアブル　１，５００倍

●カメムシ・アザミウマ類（ハナアザミウマ）の被害がみられる場合
ダントツ水溶剤　４，０００倍又は
テルスターフロアブル６，０００倍

●マディクＥＷは収穫開始予定日の２０～１０日前に散布して下さい。
※着色が６分以上の樹に散布しましょう。

２．せとみの管理

◎夏秋梢の処理

●来年度結実予定の樹の夏秋梢は処理しないでそのままにします。

●10 月に誘引できなかった樹は来春誘引をして樹勢の安定を図ります。

◎腐敗防止剤の散布（袋掛け前）

ベフトップジンフロアブル　１，５００倍

◎袋掛け

●腐敗防止剤散布後、袋掛けを行って下さい。

●11 月上旬から 12 月５日までに実施し、小玉果（61mm以下）、キズ果は摘果をしながら袋掛けをして下さい。

３．秋肥の施用

花芽分化の促進や耐寒性を高めるため秋肥を十分施用しましょう。
地温が低下すると根が養分を吸収しにくくなります。１０月下旬から１１月上旬までに秋肥を施用し、施用時期が遅れないようにしましょう。
（基準量は栽培カレンダー　３７ページを参照下さい）

キウイフルーツ

採収	11 月中下旬頃が適期。初霜前に収穫する。 糖度が 6.5～7 度を採収の目安にする。 収穫は果実温度の低い午前中に行う。 貯蔵中に一果でも腐敗果があると他の果実の軟果を早めるため、ロブラール水和剤1,５００倍を採収前に散布しましょう。
貯蔵管理	採収後はポリ袋にいれて低温貯蔵しましょう。常温貯蔵する場合は温度上昇のない場所で２０個程度ポリ袋に入れて貯蔵しましょう。 貯蔵開始１～２ヶ月は定期的に点検し、軟化果、腐敗果の除去を徹底しましょう。
元肥の施用	５年生以上で1ａ当り「柑橘有機配合１号」を１０kg程度施用しましょう

野菜

タマネギ	極早生、早生種は１１月上中旬、晩生種では１１月下旬に植え付けを行ないます。 前日に苗床に充分かん水しておいてから採苗しましょう。 苗は、長さ２０㎝、鉛筆ぐらいの太さ(６～７㎜)の、のびのびとしたものを選びましょう。苗が大きすぎると春にとう立ちし、小さすぎると肥大が悪くなります。 畝は４条植えにし、条間２５㎝、株間１０㎝とします。 深植は小玉の原因になりますので２㎝程度の深さに植えましょう。
エンドウ	《播種》播種時期は１１月上旬です。株間３０～４０㎝で３粒ずつ播種し、覆土が２～３㎝になるようにしましょう。 《支柱立て》播種の際、同時に支柱を立てておきましょう。
ハクサイ	《追肥》１１月上旬にくみあい園芸苦土Ａ８０１を一株あたり一握り施用しましょう。 《防除》ハクサイはヨトウムシの防除がポイントです。結球前にフェニックス顆粒水和剤　２，０００倍を散布しましょう。